なな山だより 50 号

2020 年 10 月 11 日　なな山緑地の会発行

照　葉　樹　の　森

中原君代

新緑の照葉樹林

伊豆高原へ越して 1 年半が経ちました。ここは老人施設。伊豆半島の東側、相模湾に面した溶岩に覆われた地です。東京で 40 年を過ごした私にとっては、生活してみるとなかなかの僻地でした。周囲の状況がやっと判ってきたところのコロナ禍で外出もままならず、救いは近隣のスーパーでの買物と慣れないネット購入をすることのみです。

とは言っても、ここは富士箱根伊豆国立公園、第一特別保護区の中、近くは海岸に沿って十数キロの照葉樹林帯が続き、その中を歩く自然研究路ができています。照葉樹とは強い太陽光にも耐えられるように葉の表面にクチクラ層が発達しているために光沢と厚みがあり、冬でも葉を着けたままの樹木です。クスノキ、タブノキは代表格で、なな山にもありまが、他にヒメユズリハ、ヤマモモ、ホルトノキなどなど大木が多く、人間の力では太刀打ちできない自然の大きさを感じます。

また照葉樹は冬でも木々がこんもりとしているので冬枯れの寂しさは感じられず、新緑の時は山が一回り大きくなったようなダイナミックさです。雑木林の多い多摩は、冬は寂しく、新緑は優しくさわやかなので、私は多摩の自然のほうが好きです。クヌギ、コナラはこちらでも薪や炭を作ったためにあちこちに見られます。これらの葉は1年で朽ちるため堆肥として農業に使われますが、照葉樹の葉が朽ちるのには数年はかかるとのことです。しかしその養分は落葉樹の 1.5 倍ほどで、フルボ酸が鉄分を溶解し雨で海に運ばれるため里海（藻場）ができ、よい漁礁となるのだそうです。よってこの辺りは釣りのメッカであり、ダイビングスポットとなっています。

お天気のよい日には木洩れ日を浴びながら近くの自然研究路を歩きます。岸壁からは伊豆諸島が美しく、なかでも大島は海辺の街並みまでも見え、手が届きそうです。そんな海ですから、昔も今も男たちは海に繰り出し、島々を渡り歩いていたのだろうなと想像しながら、初めて見る植物を探して照葉樹の森を歩いています。

ハマカンゾウが咲く自然研究路

海岸近くで見られる植物

ハマゴウ

イヨカズラ

モクレイシ

ハマゴウ：白で縁取りされた葉と薄紫色の花のコントラストが美しい。

イヨカズラ：花弁（直径 5 ㎜）の先がねじれて風車のよう。小さな花からは想像もできない大きな実（長さ 4 ㎝）。

モクレイシ：日本列島では静岡県、神奈川県のほか九州南部から南西諸島に隔離分布する植物。

・2 ページへ続く

富士山行記

青木　賢治

写真①

今年は新型ウィルスの為、富士山の山小屋は休業になってしまい登山ができない。昨年、当会の山好きな名黒さん、石井さん、湯元さんと共に私も富士山は初めてなので 8 月に一緒に登った。
通常は 7～8 合目の山小屋に泊まり、真夜中に活動開始し、山頂で寒さに耐えご来光を待つが、我々は山小屋の密集や未明の登山道の混雑を避ける為、5 合目のカプセルホテルに泊まり、翌日山頂をピストンすることにし、待ち合わせの京王線内で合流し、JR,富士急と乗り継ぎ富士山駅に到着。昼飯には幾分早かったが、駅ビルの食堂で予想に反し美味しい吉田うどんを腹に収める。バスはマイカー規制中のスバルラインを経由して 5 合目に到着。すると観光客が大勢いて、真夏の旧軽井沢のよう。そこにバスが次々と上ってきてほぼ外国観光客が 5～6 軒のレストハウスや土産物店に吸い込まれていく。多分 5 合目まで来たら立派な富士山登山になるのであろう（ここは既に標高 2300M）我々は高度順応する為 6 合目方面を散策する。暗くなりかけた麓に山中湖が銀色に光る。（写真①石井さん撮影）すると雨がポツポツ来たので、急ぎ戻る。
　翌朝 3 時半に目を覚まし、カプセルホテルの下で寝ている名黒さんにソーと声掛けするも反応がない。熟睡しているのかと思ったら、すでに山の服装で「皆集まっているヨー！」と廊下から入って来る。急いで支度して外階段からまだ暗い林道を行く。登山者はいないが警察の詰所には若い警官がすでに待機していた。6 合目辺りで東の空が明るくなり、太陽が昇ってくる。御来光だ！寒い山頂でダウンを着て待たなくても立派な御来光だ！！（写真②　写真①とほぼ同じ位置で撮影）

写真②

　登山道に入り 7 合目から 8 合目を目指す。他の山は UP-DOWN があるが、富士山はひたすら登りだ。途中、若い女性グループに出合う。聞くと EXILE のバックダンサーと言う。14～15 人に対し登山ガイドや重いカメラや集音機材等を担ぐスタッフが 20 名。「いつ放映？」と聞くとネット配信だと言う。残念！
　順調に高度を稼ぐが新八合目の次は本八合目。この間が約 2 時間！何これ？っていう感じ。ただひたすら砂の登山道を必死にジグザグと喘ぎ登って、やっと 11:30 無事に日本一高い山頂の久須志神社に到着する。御来光を山頂で仰ぎ見た人たちは既に下山した頃で人影は少ない。それでも 7 時間強かかって皆無事に登って来て大感激！高山病にもかからず体調もよさそう。この後お釜一周したかったが、今日中に帰らないといけないので、少しだけ縁を歩いて火口を覗いた。高山植物と全く縁の無さそうな山だが、火口灰の中にオンタデが咲く。下山専用道を埃を立てないよう、転倒しないよう今度はただひたすら降りた。登山口近くまで来たら斜面にきれいな雌鹿が一頭我々を迎えるが如く佇んでいた。（『富士山行記』の詳細版は、お声掛けてもらえれば、個別にコピーお渡しします）

海岸近くで見られる植物

ホルトノキ：初夏に古い葉が紅葉する。

スカシユリ：断崖絶壁に咲く。

夏のモヤモヤ

山田　英明

原稿依頼をうけて承諾したものの、はたと困った。書くことがない。無趣味なことが趣味だといえるほど無趣味な自分。唯一の趣味にしようと見つけた「ななやま」の活動にも、これまで仕事にかまけてあまり参加できていなかった。そういえば、子どもが小学校だったころは「PTA活動が趣味です」なんて、いい気になっていたなあと遠い記憶を探る。 下の子も中学生になり、最近特に、むつかしい年ごろに。上の子は高校生で何をかいわんや。しかも最近は、妻まで反抗期。女性3人、男性1人の家族の中で、1人モヤモヤと過ごす日々が続く。

先日、都合があって8月6日の広島市を訪れた。コロナ禍の下で厳戒態勢にあった平和記念式典。本来、鎮魂の場所である公園内に近づけず、式典の音さえ聞こえない外縁部で多くの市民（そこには車いすにのった被爆者の姿も）が頭を垂れる姿に、もうちょっと何とかならなかったものかと、モヤモヤとしてしまった。

よもやコロナ禍の下で積もり積もった不満に対する抗議や野次を安倍首相から遠ざけようとしたのではないかとも勘繰りたくもなった。 そんな安倍首相も8月28日に突然の辞任表明。メディアは次の自民党総裁に誰がなるかと大合唱。（9月5日現在）（この原稿が掲載されるときには、新総裁が決まっているだろうが）。誰になっても結局、従来路線が継続される顔ぶれに、新たにモヤモヤのネタが加わった。

子どもたちの夏休みは短縮され、学校行事もほとんど縮小ないし中止。中学三年生の娘は修学旅行までなくなった。悔しくて涙を浮かべる娘の姿に、何もできない無力さを痛感する。世の中の小学6年生、中学3年生、高校3年生が「一億総グレ」る年になるのではないかと心配が強烈に募る。 コロナが子どもたちをどれだけ傷つけているか、この苦しみに大人はどう手を差し伸べ、寄り添うことができるか―。モヤモヤするなんて言っている暇はないはず。 モヤモヤとたまる各種ストレスは、「血糖値コントロールを」と医者に迫られ、調子に乗りかけていたダイエットの成果をどんどん失わせていっている。

そういえば、コロナ禍の下で東京都民の遠出自粛が呼びかけられていたお盆の期間中、「不要不急ではない」と断言して妻は関西地方にある実家の法事に1人向かった。東京には、父親一人と女子二人が残されてしまった。1週間のワンオペ育児は、難しい女子二人の協力もあって、無事乗り切れた、いや、乗り切れたように感じているのはおやじだけか。

いろんな意味で〝蒸し暑かった〟夏も過ぎようとしている。まだまだ暑いけど…。気候は言うまでもなく、社会にも政治にも、そして家庭にもこれからスーパー台風が来る気配。必ず台風は過ぎると信じ、そのあとの青空を夢見ながら過ごしていくしかないか。

コロナ禍の下での平和記念式典＝８月６日、広島市

ななや山植物誌

ヒヨドリバナ　鵯花　キク科

初夏になるとヒヨドリバナが広場西の斜面や西の山の東斜面に繁茂します。キク科の多年草です。その中に網目のかかった黄色っぽい葉の一群があります。これはジェミニウイルス感染症にかかった個体です。このウイルスに感染すると、単純にいえば、光合成効率の低下→個体のサイズの縮小→枯死に至る、とのことです。宿主にダメージを与なえながらも、種としての確実な生存を意図するのでしょうか。

このウイルスは 752 年に孝謙天皇が詠んだ歌「この里は継ぎて霜や置く夏の野にわが見し草は黄葉ちたりけり（黄化している意）」と、その詞書「黄葉せる澤蘭（ヒヨドリバナのこと）一株を抜き取りて……」万葉集（巻一九）によって、夏季なのに黄葉したヒヨドリバナを詠んだ歌として、世界最古の植物ウイルスの記録とされています。千年以上も生き続けているのですから、まさしくwith ジェミニウイルスです。不思議ですね。（中原）

正常なヒヨドリバナ

ジェミニウイルス感染症にかかった個体

なな山日記（活動・観察記録）

No. 386　2020年　6月21日(日)　曇　気温　25℃
参加者　20人
3 か月ぶりの活動再開。延期となっていた総会を開き、今後の対応などの話し合いをした。

● 作業/総会、シイタケ本伏せ、畑の収穫。
● 観察/ｵｵｶﾓﾒﾂﾞﾙ、ｵｵﾊﾞｼﾞｬﾉﾋｹﾞ、ｵｶﾄﾗﾉｵ、ﾋｮﾄﾞﾘﾊﾞﾅ

No. 387　2020年　7月5日(日)　曇後小雨　温度25℃
参加者　13　人
歩道沿いの草刈り。雨にぬれて重くなった草の片付けはとても重労働だった。

● 作業/バス通り沿い草刈り、刈払い機の整備。
● 観察/トウネズミモチ、ヒメヒオウギズイセン。

No. 388　2020年　7月12日(日)　曇後晴　気温　30℃
参加者　17人
湿度の高い中、マスクをしての作業は大変。マスクを外して休憩し、水分補給をこまめに行った。

● 作業/バス通り沿いの草刈り、畑の整理。
● 観察/ヤマユリ、コクラン、カリン。

No. 389　2020年　8月2日(日)　晴　気温　29℃
参加者　17人
コロナ感染症予防対策の一つとして、感染対策ノートの運用開始。

● 作業/広場、信号機付近の草刈り、カボチャの収穫、棚用シノダケ採取等。
● 観察/ヤブミョウガ、ヤブラン、ウワミズザクラの実。

No. 390　2020年　8月9日(日)　晴　気温　32℃
参加者　14人
カボチャの生育が良く、3 回の収穫を予定。クヌギ実生の苗をポットに移植。

● 作業/遊歩道沿いの草刈り、クヌギの移植、希少植物の保護等。
● 観察/ヤマホトトギス、ツリガネニンジン。

No. 391　2020年　8月23日(日)　曇　気温　27℃
参加者　16人
ハチの状況を確認中に 2 名、ハチに刺されたが、大事には至らず。ナラ枯れが 11 本見つかった。

● 作業/西の谷と中の谷の草刈り、アシナガバチの巣撤去、ナラ枯れ病被害の調査。
● 観察/タイワンホトトギス、ヤブラン。

編集後記

コロナで中止となっていた活動がようやく再開されました。しかし、マスクをして間隔をとりながらの作業に加えて、熱中症対策もしなくてはなりません。さらに、二人の会員が蜂に刺される事件、コナラが10本以上枯れる事件も発生。前途多難なスタートです。しかし、こんなときだからこそ、みんなで心を一つにして頑張っていきましょう。 K

なな山だより　第50号　2020年　10月11日発行

発　　行　　なな山緑地の会
発行責任者　　髙木直樹
住　　所　　多摩市和田 1394-13
ホームページ　　https://nanayamaryokuti.jimdofree.com/
編集委員　　鎌田文雄　飯田歩